

研究・調査報告書

報告書番号	担当
534	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol use among older adults in the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions: a latent class analysis. 高齢者における飲酒 -National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions より：潜在クラス分析	
執筆者	
Sacco P, Bucholz KK, Spitznagel EL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol Drugs. 2009 Nov;70(6):829-38.	
キーワード	
飲酒 潜在クラス分析	
要 旨	
目的： 60歳以上の飲酒者の飲酒の潜在クラスについて検討した。	
方法： National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions より高齢者の現在飲酒者(60歳以上、4646名)のサブサンプルを解析した。アルコール消費と診断指標、潜在クラス解析をクラスの特定に用いた。クラスメンバー、社会人口学的要因、精神病理学、健康、精神健康変数の関連について多項回帰、線形回帰を用いて解析を行った。	
結果： 潜在的クラス解析で3つの潜在的クラスが特定された。低リスク飲酒リスククラス(89.17%)は一時過度飲酒、危険飲酒、アルコール乱用/依存クライテリアが低かった。中等度飲酒リスククラス(9.65%)は消費ガイドラインを超過を良く認め、高リスク飲酒クラス(1.17%)ではDSM-IVのクライテリアと危険アルコール消費項目の両方に高い確率で合致した。女性、高齢、アフリカ系アメリカ人は中等度リスク飲酒者のリスクの減少と関連を認めた。アルコール依存症者のアダルトチルドレン、喫煙者、過去喫煙者はリスクの増加と関連した。女性、高齢、大学教育は高リスク飲酒者のオッズの減少と関連した。うつ病、アルコール依存症の家庭で育った子供、現在喫煙者は高リスク飲酒者のオッズの増加と関連した。高リスク飲酒者は低リスク飲酒者より主観的な精神肉体的健康が有意に低かった。	
結論： 高齢飲酒者のサブグループはDSMのアルコール関連問題行動のなく消費ガイドラインを超えるようである。しかし、高齢の飲酒者の一部のアルコール乱用は、喫煙やうつ病、アルコール乱用や依存歴などの健康リスクの大きなパターンの一部を占めているようである。	